
怪獣対本家怪獣

亀7

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

怪獣対本家怪獣

【Nコード】

N3233V

【作者名】

亀7

【あらすじ】

NARUTOの世界で行動していた怪が今度は、宇宙へ飛んで次の世界を探しに行きました。先にNARUTOの方を、読むことをおすすめします。

始めまして、怪です。(前書き)

始まります。

始めまして、怪です。

どうも、初めての方も多いと思いますが、怪と申します。

年齢は、一応20才（NARUTOの世界で2年ぐらいいたのです）。

今、NARUTOの世界の宇宙へ飛んで別の世界を探しています。

一応、転生者で能力はウルトラマンに出てくる全ての怪獣の力と姿です。

え？何でそんな能力を選んだかつて？

まあ、簡単に言えば死んだ時に神様に頼んでみたらOKだったので。

で、能力の方ですが最高です。

もう好き勝手にやれますね。

1回も、NARUTOの世界の人間？に傷をつけられてませんでした。

まあ、本体を別の空間に置いておいたのですがね……。

で、なぜNARUTOの世界から宇宙へ出たかというと、

ぶっちゃけ、もう興味が無くなったのです。

で、もしかしたらどこかで別のアニメの世界と繋がっているんじゃないか？

と、思ったので宇宙へ出たのです。

まあ、運試しです。

まあ、広いんで多分在ると思うんですけどね。

では、怪獣対本家怪獣始まります。

始めまして、怪です。(後書き)

次から本編です。

この世界は・・・よっしやあ！（前書き）

よっしやあ？

「この世界は・・・よっしやあ！」

さてと、

「宇宙へ出たが・・・どういう事だ？」

あの時から、どれくらい経ったか分からないけど、

同じ所に戻って来るんだが？

まさか、この世界はループするようになってるのか？

「まあ、良いけどね。だって・・・空間に穴があるのだから。」

いや、何で宇宙空間に穴が空いているんだ？

と、思ったが、

多分、ご都合主義だろう。

「まあ、入ってからどっかの世界と繋がっているだろう。」

では、

「入ります。」

で、どのぐらい経ったか分からないが、

「気がついたら・・・ビンゴだ!」

周りは、

「すごく、自然がいつぱいだ。」

そして、

「当たり前だ・・・ここウルトラマンの世界だ!」

だって、

「ゴアアアアア!」

近くの湖で、

「ゲスラがいるんだもん。」

うわあ、でっか!!

でも、

「ここ地球じゃ無いから・・・怪獣バスターズの世界か?」

ゲームじゃパスワードは、やって無いけど、

ん?って事は、

「ここは、レラトニーか。」

一応、普通のゲスラが居るのはレラトニーだけだからなあ。

「うわあ、ゲスラの他によく見たら小型の怪獣も居るけど・・・。」

まあ、

「取り敢えず、寝床を探そう。」

まあ、洞窟とか作れば良いか。

「暁のコートは、記念に着ていようつと。」

まあ、それしか他に良い服が無いのだけだね。

「ん?あれ、人が居る・・・ああ!」

ゲームのキャラクターか。

「となると、ゲスラの討伐かなあ？」

まあ、大丈夫だろう。

「あっ、でもレラトーニってレッドキングとエレキングも出てくるんじゃないかったっけ？」

・・・ゲスラだけが出てくる事を祈ろう・・・勝手に。

「さてと、寝床探すか！」

小型の怪獣が入れられないような、

「寝床を。」

この世界は・・・よっしやあ！（後書き）

怪獣バスターズの世界です。

多分、暴れると思います。

寝床は？（前書き）

まあ、寝床です。

寝床は？

さてと、

「自然の洞窟は、有るんだが・・・小型の怪獣が居るな。」
クーマンばっかだよ。

「ってか、多っ！」

うじゃうじゃしてるし。

まあ、森ばっかだからね。

「・・・別の探すか。」

で、探していて、

「やっぱり、クーマンは多いなあ。」

まあ、

「速攻で、ボガールに姿を変えて食べたけど。」

えっ？何で食ったて？

だって、体の破片が飛び散ってその辺の衛生が悪くなるより良いで
しょうが・・・。

まあ、味とか食感は聞かないでくれ。

本当に・・・。

「にしても、」

昼でこれだと、

夜に行動するグモンガとか一緒だと・・・、
ブルッ!

「早く、寝床を探るか作ろう!」

もう、蜘蛛とか食いたくない!

で、岩山の前で、

「よし、ここにしよう!」

もう適当な場所に作ろう。

うん、その方が早い。

絶対に。

「じゃあ、穴を掘るのが得意な怪獣は・・・ゴモラかな?」
姿を変えて、

「作るか。」

で、

「作ってみました。」

まあ、入り口は普通に人が入れるぐらい、

中は、奥を深くして広くして、
「完成！」

結構、ツルツルに切ったりして、
平らな床です。

ベッドとかは、まあ段差をつけて作ったけど。

「よっしゃあ！次は、食料だ。」

まあ、どうせ小型の怪獣だろうけどね。

「ああ、そっぴや湖とかには・・・ゲスラとエレキングが居るな。
まあ、食うのも良いけどね。」

ニヤッ

この時、レラトニーに居る全ての怪獣が危険と恐怖を感じた。

「よし、食料を探そうっと。」

一方、

ビービー、

「何だ？この生体反応？」

この反応は、

「ボガールに、ゴモラですって！？」

「すぐに、調査をするぞ。」

『ラジャー！』

いろいろと面倒な事になりそうだった。

寝床は？（後書き）

こうなります。

食事。(前書き)

あつちらひです。

食事。

さてと、

「探すか・・・どこだ？」

いや、まあ木の实とかはあるんだけどね。

「さっきまで居た、クーモンが居ない・・・。」

いや、クーモンとか虫は居なくて良いんだけど。

「目の前の植物の怪獣のスフランは・・・食べないな。」

あれって、人の血を吸うのだから、

「旨くは、無いだろうなあ。」

他に食えるのは・・・、

「湖の方には、居るかなあ？」

まあ、魚は居るだろう。

「ゲスラは・・・討伐されてるな。」

全然、鳴き声がしない。

「まあ、行ってみるか。」

湖で、

「まあ、着いたけど。」

「ゴアアアアア!!」

ゲスラが、目の前に居るんだけど。

「討伐して・・・別の奴か?」

すぐ近くには、ゲスラの体の破片があるから、

「こいつは、怪我をしていないしな。」

多分、新しい縄張りにしようところに来たぐらいかな。

「あっ、突っ込んで来た。」
でも、

ゲスラの首の真横にテレポーションして、

ザキーン

「ゴア・ア・・・。」

ゲスラの首が落ち、

ドスン

ゲスラは、倒れた。

「舌をデインゾールの舌?に変えてそのまま伸ばして斬ったが・・・
切れ味あるなあ。」

「つてか、あっさりだったなあ。」

「ゲスラって、毒が・・・まあボガールだったら食えるわなあ。」
さて、

「食べるか。持って帰れんし。」

で、

「まあ、味はしようがないか。」
毒とかあるし。」

「取り敢えず・・・？」

誰か来たな。

体を透明にすると、

「少し様子を見ますか。」

おお、科特隊の服だ。

しかも、若いから新入りかな？

ん？何か、見ているな。

・・・待てよ？

そっぴや、リーダーみたいなのがあつたな。

つて事は、居場所が分かっているんじゃない？

こっちに、銃口を向ける・・・。

バン、バン。

撃ってきたし。

くそ！テレポーターションで寝床へ、

一方、

「反応が消えた？」

レーダーには……映って無い。

「逃げられたか……。」

取り敢えず、船に戻って報告しよう。

寝床で、

「弾には、当たって無いけど。」

まあ、傷はつかないだろうけど、

あいつらに会うのか？

興味は、あまり無いから会わん。

「まあ、あっちは探すだろうけど。」

レーダーに、ビンビンに反応しているだろうし。

「取り敢えず、眠いし寝ようっと。」

そうして、眠りについた。

食事。(後書き)

まあ、こんな物です。

発掘？（前書き）

まあ、こんなんです。

発掘？

寝床で、

「これから、どうしよう？」

いや、ここって別に敵は居ないからなあ。

「俺も、怪獣の仲間に一応入るだろうしなあ。」

能力と暁での行動で完全に悪役だし。

「それに、多分NARUTOの世界と違ってここじゃ俺の弱点とか突いてきそうだなあ。」

え？

弱点とか、あるの？

いや、ここだと怪獣の倒し方を知っている奴は多いからなあ……。

「まあ、能力でまず死なないのだけど。」

怪獣の能力でね。

「ここだと、目的が無いしなあ。」

正直、メビウスでのボガールの立ち位置だしなあ。

「そっぴゃ、他の星もあるよな。」

……探すか。

テレポーテーションで宇宙へ、

宇宙で、

「さてと、探そうっと。」

今はボガールの姿で、大きさは本物と同じです。

この時、レーダーに反応があったのは怪は知らない。

で、

「見つけたのは・・・イメルか？」

まあ、行ってみるか。

で、

「体が少し重いな・・・。」

まあ、重力が違うのは知っていたけどね。

「さてと、取り敢えずその辺の岩とか食おう。」

え？

食えるのか？

まあ、この体だしね。

「食ってマグネタイトを探そうっと。」

で、

「なんか、食っていたら変に硬いのが・・・マグネタイトか？」

なんか、持った部分が重く感じるし・・・。

たくさん、見つけて持って帰ろうっと。

ん？

何でかって？

まあ、ちょっとね……。

で、

山のように積まれたマグネタイトを

「体に取り込んで」と。

イメルの重力に耐えられるようになった。

「持って帰ろう」と。

テレポーションで寝床へ、

元の姿に戻り、

寝床で、

「少し出して、奥に置いて」と。

ドサッ

「さてと……次はアペヌイとコンルと怪獣墓場かな？」

ワツカは、特に鉱石が無いから良いとして、
「まあ、あれをやるのは集めてからにしよつと。」
怪は、眠った。

一方、

「リーダーからボガールの反応が消えました!？」
「くそ!どこに消えたんだ!？」
ボガール(怪)が消えた事に焦ってた。

発掘？（後書き）

早くしないとなあ。

発掘みたいな何か？（前書き）

まあ、短いです。

発掘みたいな何か？

さてと、

「次に、行くのは・・・アペヌイかな？」
暑そうだな。

いや、普通は、人が入れるような環境じゃあ無いか・・・。

「よし、行くか。」

・・・まず、探さないと。

で、

「見つけて着いたけど・・・熱い。」

早く、ホムラ石を取り込んで耐性を作らないと・・・。

でも、

「まず、目の前の、」

ゴアアアア!!

「変異したゲスラを食わないとね。」
つて、

「火の玉、吐き出してきたあ!？」
避ける!

ドワ・・・ジュー。

火の玉が当たった場所が溶けていた。

「そりゃあ、溶けるわな・・・。」

でも、

「熱くて食えないじゃないか!!」

取り敢えず体を・・・、

いや、腕から、

「ウルトラ兄弟必殺光線!」
ビーン

腕から出してみました。

そして、

「ゴア・・・。」

ドスン

「倒したぜ。」

まあ、早く、

「食つか。」

ボガールになつてと。

で、

「食ってみたが熱いなあ、でも毒があまり無かったなあ。」
「適応するために毒を作らなくなったのか？」
まあ、良いか。

「さて、ホムラ石を探すか。」
さつきから、暑いし。」

で、

「後は、取り込んでつと。」
体が熱くなくなった。

「さてと、持って帰ろうつと。」
テレポーションで寝床へ。」

一方、
「ボガールの反応、アペヌイで消えました!？」
「くそ、またか!」

で、

「出して置いてっつと。」
ドサッ

「後、残っているのはトウド石、エレキニウム、ゼットニウム、ペダンダイト、スペシウム石ぐらいかな?」
後の、4つ以外はコンルで採らないとなあ。
4つは、怪獣墓場で採れるけど。

・・・スペシウム石も、怪獣墓場にあつたけ？
最悪、ゼヴォスカギラ・ナーガが居る場所を探すか・・・。
「そついや、最近ゲスラを食ってばっかだなあ。」
まあ、楽だから良いけどね。
「さてと、このままコンル行くか。」
テレポーターションで宇宙へ。

発掘みたいなのか？（後書き）

こんなものかな？

発掘だよな？（前書き）

まあ・・・。

発掘だよな？

さてと、

「コンルは、見つけたが寒い！」

いや、コートだけ着ているから当たり前か、

「早く、トウド石探そうっと。」

で、

「まあ、取り敢えず多分これだと思うが……。」
見た目が氷と同じで、分かりにくいなあ。

「まあ、吸収っと。」

トウド石を取り込んだ。

寒くなくなった。

「よし、戻ろう……ん？」

なぜ？

「ギャオオオオ!!」

変異したレッドキングが居るんだよ!?

でも、

「ふん!」

手から波動球を出して、レッドキングの顔にぶつけた。

ドッカーン

爆発した。

そして、

首から上が無くなり、

ドスン

レッドキングの体は倒れた。

「レッドキング、瞬殺!!」

時間的に、早く終わらせたいんだよ!

「まあ、ゾグの波動球・・・強すぎ。」

ボス系統の怪獣の能力は、使わないようにしよう。

早く終わってしまう。

「まあ、食おうっと。」

ボガールの体で食った。

で、

「ゲスラよりは、うまいな。」
冷たいけどね。

「じゃあ、戻るうつと。」

テレポーテーションで寢床に

さて、

「次は、怪獣墓場のエレキニウム、ゼットンニウム、ペダンダイト、
スペシウム石・・・いや、待てよ?」

キングジョー、

「ペダンダイトで、キングジョーできてるんだっけ?」
まあ、

「どちらにしても次は、怪獣墓場か・・・。」

ワツカとモシリスは、鉱石が無いから良いけどね。

それと、

「ゼットンから、ゼットンニウム採れたっけ?」

いや、まずゼットンに勝てるかな?

まあ、

「スペシウム石は、不明だからな。」

ウルトラマン・・・無理か。

「まずこの世界に居るのか・・・ウルトラマン?」

取り敢えず、

「怪獣墓場に行くか。」

テレポーテーションで宇宙へ。

発掘だよな？（後書き）

これから？

発掘・・・（前書き）

このまま。

発掘……。

さてと、

「怪獣墓場……だよな？」

一応、怪獣の霊とかが居るはずなんだが？

「やっぱり、ここはウルトラマンの居る怪獣墓場では無いのか。」

まあ、それだとアークボガールが居るはずだから良いけど……。

「さて、エレキニウム、ゼットンニウム、ペダンダイトを探さない
と。」

スペシウム石は、有ったら良いけどなあ。

で、

「まあ、それらしいのは見つけたが……。」

エレキニウム、ゼットンニウム、ペダンダイトは見つけたと思う・・・
・見た事無いけど。

「取り敢えず、取り込んでっつと。」

これで、ロボット系統の怪獣の能力も使えるような気がする。

で、

「ピポピポピポ、ゼットンー!!」

目の前に、変異したゼットンが居ます。

いや、覚悟していたけどさ、

いきなり、目の前に出てきたからびっくりしたあ！

でも、

「ちょっと、火の玉でかすぎじゃないか？」

この辺一帯を覆うぐらいの、火の玉をゼットンは作り出していた。

ポワッ!!

「うお!? テレポーターション!?」

テレポーターションで、ゼットンの頭の上に移動した。

ジューー!!

「大穴が空いているんだが……。」「
強過ぎたる!?」

威力が有りすぎ……。」「
でも、

「カオスヘッダーみたいな体に変えて、」「
ゼットンに取りついた。」

「ピポピポピポピ!?」
このまま、侵食してつと。

「ピポ……。」「
で、このまま取り込んで吸収した。」

「よし、このままテレポーテーションして寝床へ戻ろう。」「

で、

「取り込んだ鉱石を置いてつと。」「

ドサツ！

「次は・・・スペシウム石は有るかな？」
不安だ。

「どこに有るんだ？」

いや、ウルトラマンからは・・・この世界には居ないか。
どうしよう？

「取り敢えず、歪みみたいなのが有るのを探そうつと。」
それでは、

「スペシウム石を探そうつと。」
テレポーテーションで、宇宙へ。

発掘・・・（後書き）

次ぐらいで、最終回かな？

怪獣バスターズでの最終回。(前書き)

最終回。

怪獣バスターズでの最終回。

さてと、

スペシウム石を探そうとして歪みを探していたら、

「見つけたけど・・・。」

星の破片みたいな足場が無いんだが？

「取り敢えず、足場を探そう。」

近くに、有るだろう。

そこに、スペシウム石が有る筈だ。

で、

「まあ、見つけたと思うけど……。」「
なんか、

「気持ち悪いな……。」「

そして、スペシウム石？を持ってみると、
バチッ

「痛っ!?!」

落としてしまった。

「……。体が拒否しているのか?」

ウルトラマンのエネルギーにも、これが使われているからな。

「当たり前という事が……。」「
でも、

「取り込んでやる!」

そしたら、

「ウルトラマンの力も、手に入れる事ができる筈だ。」「

まあ、ベリアルみたいな事になるかな?

「よし、吸収だ。」「

そして、取り込もうとすると、
バチッ

「痛い!?!」

それに、体が焼ける!!

「ふざけるなあ!?!」

絶対に手に入れてやる。

「ぐう!」

バチッバチッ

「があああ!?!」

焼ける!

「体が熱い!」

それから、数時間経過して、

「はあはあ……。」
手に入れた。

「ウルトラマンの力も、
この、

「俺の物だああ!!」
怪は、ウルトラマンの力……いや、闇と光の両方の力を手に入れた。
後、

「残りのスペシウム石を持って帰って、
作れる筈だ、

「ギガバトルナイザーを。」
俺のギガバトルナイザーを。

一方、
「キャップ!？」
「どうした？」
「歪みにベリアルが反応が!？」
「何だと!？」

そして、寢床で、

「マグネタイト、ホムラ石、トウド石、エレキニウム、ペダンダイト、ゼットンニウム、スペシウム石。」
これ等に、

「俺の闇の力を混ぜて……。」
バチツバチツ

「ちっ、やっぱり拒否を起こすか。」
だが、

「力押しだ。うおらああああ!!」
バチツバチツ……。

スペシウム石は拒否する力を失い、
全ての力は1つになり、
ギガバトルナイザーが完成した。

「これで、この世界からおさらばだな。」
このまま、

「平行世界に行ける筈だ。」
影法師の移動能力。

「じゃあな、怪獣バスターズの世界。」

今度の世界で、

「暴れてやるよ!」

そうして、怪の姿は消えていった・・・。

終わり。

次は、「怪獣対魔法少女& a m p・ウルトラマン」かな？

怪獣バスターズでの最終回。(後書き)

次の世界では、魔法少女リリカルなのはS_tS後の世界とウルトラマンが存在する世界です。
では。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3233v/>

怪獣対本家怪獣

2011年9月4日22時43分発行